

(公社) 日本食品衛生学会 第2回分析セミナー

開催日時 平成30年9月6日(木) 13:00~16:30

開催場所 幕張メッセ国際会議場 (千葉市) 【JASIS2018 コンファレンス】105 会議室

プログラム

知って納得! 食品分析 How to do it: ここまで使える網羅的解析最新テクノロジー

13:05~13:50

演者: 瀧川義澄(アジレント・テクノロジー株式会社)・ 山上 仰(西川計測株式会社)

講演タイトル: 分析の fitness for purpose を考える ~網羅的解析テクノロジーと分離分析~

講演の概要: 網羅的解析テクノロジーの進歩により、食品分析でも多成分一斉分析、ターゲット・ノンターゲット分析の分離分析との組み合わせが、食品安全から食品開発まで活用されるようになってきている。網羅的解析テクノロジーと分離分析の最近に進歩と残留農薬スクリーニングでの活用事例と”fitness for purpose”の考え方、そして網羅的解析テクノロジーと分離分析の新たな可能性である分析支援データベースの可能性について講演する。

13:50~14:35

演者: 宮下 隆(キューピー株式会社)

講演タイトル: MALDI-TOFMS の異分野への展開

講演の概要: 1985年に開発されたイオン化法であるMALDIは、ポリマーペプチド等の分析で使われたが、2011年頃から微生物同定にも活用が開始された。現在、微生物同定において多くのラボで導入されつつある、MALDI-TOF MSについて解説するとともに、微生物同定をはじめ、その他の食品分析への展開や当社での活用事例についても紹介する。

14:50~15:35

演者: 中川博之(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門)

講演タイトル: 高分解能 LC-MS を用いたカビ毒配糖体の検索

講演概要: カビ毒はヒトや動物体内において代謝・減毒化されるが、同様な機構は植物にも存在する。植物体内でカビ毒は糖を付加することで減毒化される。このようにして生成されるカビ毒配糖体はマスクドマイコトキシンとも呼ばれている。マスクドマイコトキシンは腸内細菌による加水分解等によりカビ毒を遊離するため、潜在ハザードとして注目されている。本講演ではカビ毒配糖体について、その分析例や最近の研究動向も含めながら紹介する。

15:35~16:25

演者: 飯島陽子(神奈川工科大学応用バイオ科学部)

講演タイトル: 食品のオミクス解析~メタボロミクスに基づく食品の質的評価

講演概要: 食品は薬品とは違って、1つの食品でも様々な成分が含まれており、さらに発酵や加工、調理によって、成分組成がより複雑化している。よって、食品の質的評価を包括的に考える際には、特定の成分のみに着目するのではなく成分の複雑性を把握する必要がある。本講演では、主に質量分析計を活用したメタボロミクスの手法を用いて食品成分を一斉解析することでどのようなものが見えてくるのか、その活用、事例について紹介する。